

会 議 録

会議名	平成28年度第1回図書館協議会		
事務局	図書館		
開催日時	平成28年5月12日(木) 午後2時～4時		
開催場所	602会議室(第2庁舎6階)		
出席者	委員	田中 幸夫 藤森 洋子 鴨下 万亀子 石田 静子 内田 美帆 坂野 勝一 中里 成子	
	欠席者	大友 敬三 船崎 尚 吉田 和夫	
	事務局	西田部長、菊池館長、西村庶務係長、岡本奉仕係長、栗栖庶務係主事	
傍聴者の可否	可	傍聴者数	0
傍聴不可・一部不可の場合はその理由			
会議次第	<p>1 議 題</p> <p>(1) 6施設複合化における図書館について</p> <p>(2) 平成28年度小金井市図書館協議会の開催日程について</p> <p>(3) その他</p> <p>2 報告事項</p> <p>(1) 平成28年第1回小金井市議会定例会報告</p> <p>(2) 三者懇談会(5/27開催)について</p> <p>(3) その他</p> <p>3 その他</p> <p>4 配布資料</p> <p>(1) 6施設複合化における図書館規模について【事前送付】</p> <p>(2) 第14期小金井市図書館協議会委員名簿</p> <p>(3) 平成28年度図書館事業計画(案)</p> <p>(4) 第3次小金井市子ども読書活動推進計画</p> <p>(5) 第3次小金井市生涯学習推進計画</p> <p>(6) 月刊こうみんかん(No.454、455、456、457)</p> <p>(7) 2015「青少年のための科学の祭典」東京大会 in 小金井報告書</p>		

平成28年度第1回 小金井市図書館協議会

平成28年5月12日

【菊池館長】 皆さん、初めまして。図書館長の菊池と申します。

本日はお忙しい中、本年度第1回の図書館協議会にご出席いただきまして、ありがとうございます。

ご挨拶はまた後ほどさせていただきますが、本日は吉田委員と船崎委員、この後にご紹介いたします、新たに図書館協議会委員となられた大友委員からもご欠席の連絡をいただいております。よろしくお願いいたします。

最初に生涯学習部長の西田よりご挨拶をお願いいたします。

【西田部長】 皆さん、こんにちは。生涯学習部長の西田でございます。本日はお忙しいところ、お集まりいただきまして、ありがとうございます。後ほどご紹介があるかと思いますが、3月31日で小金井市の小中学校の校長会からご推薦していただいていた委員の方にご退職が発生し、その関係で交代がありましたので、新たに就任ということになります。後ほどご紹介させていただきます。

さて、皆様ご承知の方もいらっしゃると思いますが、本市では、平成28年度、年間を通しての本予算が3月議会で否決をされました。そのことにより、4・5月につきましては、2カ月間の暫定予算となっております。これは政策的な判断等を必要とする工事費をはじめとする予算は原則組むことができないという性質のものでございまして、継続的なもの、義務的なもの等だけの予算ということになっております。

こうした中、図書館といたしましても、図書費が暫定予算では組めないという結果になりました。そのことから4月以降は図書が購入できない状況になっております。また、図書館本館の空調設備改修工事のための設計委託費も準備が進められない状況になっております。6月以降の予算につきましては、今月中に臨時議会が開かれることとなっておりますが、現在のところ、その後どういう見通しになるのかは、わからない状況にあります。市民の皆様にはご不便をおかけしておりますが、図書館職員一同、この難局を乗り越えてサービスに努めてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

もう1つ、お話をさせていただきます。6施設複合化についてです。後ほど、図書館長から詳しく説明させていただきますが、東小金井と武蔵小金井の間の南側、隣にマンションが

建っている土地がございます。蛇の目ミシン工場の跡地であったため、通称蛇の目跡地という言い方をしていますが、こちらに本庁舎、第二庁舎、本庁暫定庁舎、前原暫定集会施設、福社会館、図書館の6施設を複合化することを去年の12月に当選された西岡新市長が選挙の際に公約をしていたことがございます。このことから、3月から庁内にプロジェクトチームが結成され、現在は先ほどの6施設複合化等についての調査、検討が進められております。本日は皆様方にこのプロジェクトチームの進捗状況をご説明申し上げるとともに、図書館が複合化することについてのご意見を伺い、今後の検討材料の1つとさせていただきます。

以上、短いですが、私の挨拶とさせていただきます。引き続きですが、事務局を紹介させていただきます。

お世話になりました前館長の上石弘美が3月31日をもって定年退職いたしました。その後任として、奉仕係長をしておりました菊池幸子が4月1日から図書館長に就任をいたしました。また、奉仕係長には、奉仕係主任でありました岡本正信が4月1日から務めさせていただきます。それでは、2人から挨拶をさせていただきます。

【菊池館長】 改めまして、皆さんこんにちは。4月から図書館長を務めております菊池と申します。よろしくお願いいたします。

図書館の在職期間は長いのですが、この職責になりまして今までの業務と大きく違うということを感じておりました。まだ就任して1カ月少々ですが、前館長も大変であったのだろうということを身にしみて感じております。まだまだ勉強不足のところもありますので、これから勉強してまいりたいと思っております。図書館が抱えている問題、様々な課題もございます。一つずつ解決していきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

【岡本奉仕係長】 初めまして。この4月から奉仕係主任から奉仕係長となりました岡本と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

図書館は3年半前に配属になり、貫井北開設の仕事にも携わらせていただいております。前任の菊池と比べると、図書館での経験値が足りない中での係長ですけれども、一つ一つ頑張っていきたいと思っておりますので、ぜひよろしくお願いいたします。

【菊池館長】 では、ここで大変失礼ではございますが、西田生涯学習部長は次の公務がございますので、ここで退席させていただきます。

【西田部長】 それでは、よろしくお願いいたします。

【菊池館長】 では、続いて配付資料の確認をさせていただきます。

【西村庶務係長】 お手元に皆さんの資料を配付させていただいております(資料確認)。

【菊池館長】 では、会長、よろしくお願いたします。

【田中会長】 皆さん、こんにちは。第1回目の小金井市図書館協議会を行いますが、今日は最初に報告事項をさせていただいて、その後、説明等時間がかかると思われる議題に、特に6施設複合化における図書館というものについてご説明いただき、皆さんのご意見をいただきたいと思ひます。まず、この次第に書いてある順番より先に報告事項をさせていただきますと思ひますが、よろしいでしょうか。

それでは、初めに図書館協議委員の委嘱についてお願いたします。

【菊池館長】 それでは、第14期の図書館協議会委員の委嘱について、ご説明させていただきます。先ほど、西田部長からもお話がございましたけれども、1号委員に市内に設置された学校が推薦した学校の代表者の神成委員が3月31日で学校を退職されましたので、その補欠委員の委嘱でございます。補欠委員は、小金井市図書館協議会選出要綱に基づき、小金井市立小中学校校長会にご推薦いただきました。4月21日開催の選考会議にお諮りしまして、5月10日の教育委員会で決定いたしました。新しい委員は大友敬三委員でございます。任期は平成28年4月1日から平成29年10月31日で委嘱するものでございます。名簿は今日の配付資料でございますので、ご確認ください。本来ですとこちらで委嘱状の交付があるのですが、大友委員から欠席のご連絡をいただいておりますので、委嘱状は送付させていただきたいと思っております。以上です。

【田中会長】 委員の皆様からご質問等はございますでしょうか。すみません、大友先生はどこの中学校の方ですか。

【菊池館長】 東中学校です。

【田中会長】 東中学校ですか。はい。

それでは、次第に戻りまして、この報告事項からいきたいと思ひますが、(1)の平成28年第1回小金井市議会定例会報告ということで、事務局からご報告をお願いたします。

【菊池館長】 それでは、小金井市議会第1回定例会を報告します。

定例会では3人の方から一般質問をいただきました。紀議員からは、来館困難な方に配本サービスを行っていますが、小金井市ではいつごろから始めて、現在の利用状況はどうか、利用されている方は高齢者の方が多いのかというご質問でした。こちらの回答といたしましては、配本サービスは平成2年から開始していること。視覚障害の方、聴覚障

害の方の他に、外出困難な利用者も対象であること。そして、過去5年間の利用回数と利用者数をお答えいたしました。

お二方目は小林議員からご質問ございました。市長のグランドデザインに図書館のあり方はかかわってくると思うが、検討を早急に進めるべきではないかというご質問でございました。従前より中央図書館の整備が市の基本計画にも掲げられておりますので、検討していく必要があると認識しております。来年度か今年度には中長期計画の検討に関連して、図書館協議会にも諮問していくという流れを考えていますとお答えしております。

3人目、渡辺大三議員からご質問ございました。市長の施政方針、公約に関連して、6施設の複合化、集約化という言葉が使われているが、図書館についてご意見がありました。図書館の機能、面積、基本構想、基本計画はいつまでに可能なのかというご質問でした。こちらにつきましては、今後6施設複合化プロジェクトチーム、公共施設等総合管理計画等と調整を図りながら、来年度中には中長期計画に関連して図書館協議会にも諮問していかなければならないと考えていますという趣旨の答弁をしております。

平成28年度の予算について、続いてご報告をするところでございますが、先ほど西田部長から報告させていただきましたので、こちらは割愛させていただきます。以上になります。

【田中会長】 はい。議会報告がありましたけれども、何かご質問等がありますでしょうか。

【坂野委員】 今の館長からのご説明の中で、言葉の問題なのですけれども、渡辺大三議員の質問に対する回答、来年度中に図書館協議会に諮問するというのは、この構想を来年度中に仕上げるという意味なのか、来年度中に諮問・議論を開始する、どちらの意味でございましょうか。

【菊池館長】 上石前館長のご答弁なのですが、来年度中ではなく今年度中で、今年度中には何らかの形で諮問していきたいと考えているところで、仕上げるという意味ではなくて、諮問していきたいということです。

【坂野委員】 はい。わかりました。

【田中会長】 はい。その他にございますか。

【鴨下委員】 複合化プロジェクトチームについては図書館も入っていますよね。もう発足しているのでしょうか。発足しているとしたら、図書館関係としてはどなたが入っているのか、もし差しさわりのなければ教えてください。

【菊池館長】 はい。3月に発足いたしましたので、期間は8月までという設置期間となっております。図書館からは私、図書館長が出席しております。

【田中会長】 その他何かございますでしょうか。ないようですので、それでは報告事項の(2)三者懇談会(5/27開催)について、報告をお願いいたします。

【西村庶務係長】 4月28日にメールで皆さんに三者懇談会の日程を送らせていただきました。今回の内容につきましては、幹事の社会教育委員より地域活動の活性化の取り組みについてというテーマをいただき、グループに分かれてディスカッションをしていただくというものです。従前ですと、各審議会正副の会長で打ち合わせをする段取りです。当日集まって、グループでお話しいただいて、最後に報告をしていただくという形になりますので、27日当日午後2時からこの建物の8階801会議室にお集まりいただくよう、よろしくお願いいたします。

また、当日お忙しい中お集まりいただく関係で遅れる方や途中退席される方がいらっしゃるというご連絡をいただいておりますが、特にグループで振り分けを行いますので、差し支えございません。皆様ご了承ください。

【田中会長】 懇談会について他にご質問等ございますでしょうか。

【坂野委員】 1つ質問ですが、今のお話で最後に報告をするとおっしゃいましたが、これはあくまで会議の中での報告なのか、それとも対外的に報告するものなのか、どちらでございましょうか。

【西村庶務係長】 報告というのは、グループでやっていた内容をその中で報告いただくということです。

【田中会長】 この件に関しましては大変申し訳ないのですが、当日私は不在になりますので、よろしくお願いいたします。代理が見えますので。

それでは、報告事項(3)に入りたいのですが、その他ということで、何か報告事項ございますでしょうか。

【菊池館長】 先ほど手元にお配りいたしましたので、第30回小金井市子ども読書活動推進計画の完成版ができ上がりましたので、お配りさせていただきます。皆様方にはご協力いただきまして、本当にありがとうございました。素敵な挿絵を学芸大の正木先生に入れていただいているのですが、印刷の都合で冊子は白黒になってしまっていて本当に申し訳ないなど。今日は生涯学習課の立派な冊子と一緒に配りして目立っているのですが、ホームページに上がっているものはカラー版で上げさせていただきますので、お時

間のあるときにご覧いただければと思います。ありがとうございます。以上です。

【田中会長】 立派な冊子です。冊子についていかがでしょうか。その他、何かご報告事項ありますでしょうか。

【石田委員】 少々いいですか。その他で、今度図書館の会議がいつあるかという予定はわからないので、三者懇談会の時に科学の祭典についてお話しさせていただきます。図書館協議会も例年どおりの参加ということを予定してはいただけますでしょうか。それともどうでしょうか。

【田中会長】 それは、後で。

【石田委員】 はい。5月27日に私が説明しますので、そういうことがあるということだけ皆さんにお話ししておいていただいて、対策というか、集まる回数が少ないので、どのようにするかということを少々隅に入れておいていただければと思います。

【田中会長】 わかりました。

【石田委員】 そして、それに関連することで、後ほど少々図書館長に昨年協議しました「理科読」という言葉での本の紹介をまだ館長によく話をしていませんので、また改めて話をさせていただきたいと思います。

【田中会長】 議題のその他で少し時間があれば、話をしたいと思いますけれども。

【石田委員】 はい。

【田中会長】 これはいいですか。

【石田委員】 すみません、ここで34番にミスプリントがありました。さて、10回記念の報告書でございます。その中の17番が図書館の昨年の出席ブースの紹介でございます。ということで、今年も学芸大のN棟とS棟とを使って科学の祭典を開催するように今事務局と準備を進めております。一生懸命頑張ってまた今年もよろしく願いいたします。

【田中会長】 その他何か報告ございますでしょうか。では、ないようですので、次第に戻りまして、議題に入ります。(1)6施設複合化における図書館についてということで、事前に10枚ほどの資料が送られてきてまして、この資料について少し説明をしていただき、どのように進めるかまだ分かりませんが、皆さんのご意見をお伺いしたいと思います。では、お願いします。

【菊池館長】 資料のご説明の前に、先ほど部長からも少しお話はありましたけれども、6施設複合化についてお話しさせていただきたいと思います。

6施設複合化は、新庁舎建設において市内にある6施設を蛇の目跡地に集約して複合化するということで、西岡市長の選挙公約にございました、6施設とは、本庁舎、この第2庁舎、そして本庁暫定庁舎、前原暫定集会施設、福祉会館、図書館の6施設。公民館は施設的に福祉会館の中に入っておりますので、実質的には公民館も一緒に会議に参加して検討していくということでございます。

この複合化の検証を行うために、3月に6施設複合化プロジェクトチームが設置されました。設置期間は8月までです。チームは6施設の複合化の実現に向けた調査、検討を行い、その結果を市長に報告することになります。ただ、市長は8月を待たずに中間報告を出す考えを示しましたので、遠くない時期に中間報告が出されることになるかと思えます。

6施設プロジェクトチームについてですが、図書館からは私が参加させていただいております。今現在、各施設の現状や課題等を取りまとめて、複合化の実現に向けての課題を洗い出し、調整を図っているところでございます。市役所や福祉会館は、6施設複合化の話が出る前から建設に向けての構想・計画がございましたので、これらが複合化に向けての検討材料となっていたと思います。

一方、図書館においては計画を持っておりませんので、プロジェクトチームには規模を算出する基準等をもとに意見を述べさせている次第でございます。チームが8月までです。図書館協議会の方々の意見を伺って反映させなくてはいけないと焦っております。希望する図書館の規模や機能を私の一存で進める訳にはいきませんので、それで今日皆様方のご意見を伺いたく、議題とさせていただいた次第でございます。

ただ、今の説明だけでは、皆様からご意見をいただくのも難しいと思っておりますので、参考資料を作成いたしました。その参考資料について奉仕係長からご説明させていただきます。

【岡本奉仕係長】 では、お手元にお持ちの「6施設複合化における図書館規模について」という資料のご説明をさせていただきたいと思っております。

内田委員はまだお目通しいただいていなく申し訳ないのですが、各委員におかれましては、事前送付で一通りお目通しいただいているかと思っております。そのため本日は要点を絞った説明とさせていただきます。

まず、この6施設複合化において、蛇の目跡地に建つ建物についても、面積的には上限がございます。図書館がその中に入るに当たって、新しい図書館はどれぐらいの規模のものを入れるのか、また求められているのかという内容を検証した資料となっております。

1番にいきます。まず、現在の小金井市立図書館本館・別館の概要となっております。

本館については昭和50年の開館、もう既に40年以上過ぎているところでございます。蔵書数が27万3,000冊、このうち約半分が1階、2階の開架書庫、残りの半分が地下の開架書庫に所蔵されているような形となっております。

本館の別館につきましては主に集会室、学習室として使われている建物でございまして、本は置いておりません。

2番、図書館本館の現状と問題点ということで、現在本館が抱えている問題としては大きく2つあります。1つは施設面の問題で、もう1つがそれに起因するサービス面の問題でございます。図書館本館は開館40年が過ぎておりますが、今まで大規模改修は行われておりません。そのために耐震診断はクリアしたところでございますが、建物自体、雨漏り、外壁のタイル割れ、水回りやエアコン関係、非常灯関係、数多くの問題を抱えている状況でございます。開館当初と現在を比較すると、書架にも余裕がない状況です。ただ、ある程度の蔵書数は持っていなければいけないということで、それまであった学習室を無くしたり書架と書架の間にもう一個書架を追加したりということで、蔵書数を増やしてきた経緯があります。そのために、車椅子やベビーカーでの利用が非常に難しい、人がすれ違うことも難しい場所がございます。

平米当たりの蔵書数で比較すると、平成26年4月にオープンした貫井北分室の2倍以上の本がおさまっているような形となっております。本を詰め込んだ結果、落ちついて本を読む閲覧席が極端に少ない状況となっております。本も半分が人目につかない閉架書庫にある状況で、開架書庫の本と比較すると極端に利用率が落ちてしまい、図書館の貸出数が伸びていない一因となっているのではないかと考えております。

また、一般的に他市の図書館にはあるが、小金井市の図書館にはない市民要望度が高いサービスが多々ございます。例として、学習室や利用者用のインターネットパソコン、ボランティアルーム等が挙げられます。改善すべき点としても、ゆったりと図書や新聞を読むスペースの確保、老朽化した対面朗読室の改修等がございました。

3番の複合化施設における図書館新館を検討する際の基礎データに移ります。図書館新館の面積を出すに当たり、新しい建物については、今一般常識となっているユニバーサルデザイン、誰でも利用しやすい施設とするために、貫井北分室を参考とさせていただきます。ゆったりとした図書館を目指すために、所蔵可能数は平米当たり80冊、閉架書庫は電動集密書架とし、1平米当たり500冊を基準として考えました。

(2)です。図書館を運営するに当たり、必要な機能及び面積を別紙1(6ページ)に

表記しました。別紙1の(1)図書館運営に必ず必要なものとして、14項目挙げさせていただいております。ただこちらについては新館に必ず入れなければいけないものと決定した訳ではございません。あくまでもこの規模を求めるに当たって職員の間でこれは必要だろうということで挙げさせていただいたものですので、今後変わっていく可能性も十分ございます。

同じく(2)に市民要望が高い機能についても8項目挙げさせていただいております。それぞれに必要な概略の必要面積も載せております。

もとに戻りまして、3番の(3)です。図書館新館の概略規模を次の3通りとして検討いたしました。アは、現状(1,956平米)と同等の規模(2,000平米)となっております。2,000平米の根拠ですが、新市長が議会で6施設複合化するに当たっては、新しくそれぞれ入る施設の規模は現状と同規模を考えているという発言をしたことに伴い、同規模の2,000平米をまず挙げさせていただいております。

イを飛ばしまして、ウです。公立図書館の任務と目標から算定した規模4,000平米、算出方法は別紙2のとおりとなっております。こちらは8ページをご覧ください。図書館の規模を求めるに当たり、一定の根拠となる基準として、まず1個目が図書館の設置及び運営上望ましい基準における目標基準例、こちらは文部科学省が出しているものですが、これに付随し公立図書館の任務と目標、こちらは日本図書館協会が出しているものです。こちらの2つをもとに小金井市の図書館として必要な面積がどれぐらいなのか計算を行いました。前提条件としては、小金井市の想定人口は11万7,000人、現在、本館、各分室、西之台図書室における延べ床面積は合計で3,200平米、蔵書冊数は44万4,000冊、そのうちの開架冊数は28万8,000冊となっております。

3番、目標基準に基づく規模算定で計算したところ、まず図書館の設置及び運営上望ましい基準における目標基準例から算出すると、小金井市の図書館は7,397.8平米が1つの目安という結果になりました。もう1つの公立図書館の任務と目標。では5,171平米となりました。それぞれこの面積から現状の3,200平米を引くと、小金井の図書館としては、約2,000平米から4,200平米、現状においては面積が下回っている状況となっております。公立図書館の任務と目標との差の約2,000平米下回っている数字を使いまして、今の本館が2,000平米ですので、2,000足す2,000で4,000平米が最低ラインじゃないかということで、このウの面積とさせていただきました。

イの面積は、アとウの間として検討させていただいております。こちらは3,000平

米となっております。

3 ページの4番、概略規模ごとの検討です。それぞれの概略規模ごとに、先ほど別紙1で求めた運営に最低限必要な面積である590平米を引いた残りをそれぞれ一般書、児童書、参考資料室、閉架、ヤングアダルトコーナーで振り分けるとどうなるかというのが概略規模ごとの検討となります。

アの2,000平米の場合ですけれども、それぞれ一般書であれば600平米、そこに収められる図書の数が約4万8,000冊、児童書であれば350平米で2万8,000冊が収められるという表の見方になります。こちらの2,000平米の場合のメリットですけれども、施設・設備面の問題、今老朽化した施設で様々な不具合があるのですが、施設が新しくなるということで、施設・設備面の問題点が解消されるということが1点挙げられます。もう1つは、建築面積が少なく、安い費用でできるということです。それに対して、デメリットについて。①移転に当たり2,000平米には収まりきらない5万1,000冊を廃棄しなければならない上に、新館オープンの際に既に蔵書数が上限一杯になってしまうというデメリットがあります。②としては、開架の蔵書数が大幅に減るため、貸出数が減るおそれがある。③地域資料、永久保存資料の保存役割を担うには、閉架書庫があまりにも狭い。④市民要望が多い新規機能を全く追加することができない。⑤開架フロアより閉架書庫の蔵書が多くなってしまいう問題点がございます。

次に、イ案の3,000平米の場合です。こちらは3,000平米から590平米を引いた残りの2,410平米を各部分に振り分けることができます。その結果のメリットとしては、①は先ほどと同じです。②につきましては、現在の開架・閉架の蔵書数とほぼ同じ構成で移行ができます。③310平米分余りますので、そこに新規機能を追加するためのスペースができるということが挙げられました。それに対するデメリットとして、こちらも①開館時に蔵書数が既に一杯になってしまう。今と同じ量の図書しか入らない計算となっております。②については、先ほどと同じく閉架書庫のほうの方が狭いので、保存資料を保管することが難しい。③としては市民要望が多い新規機能を全て追加することができない。一部しか入れられないということです。

次に、ウの案ですけれども、4,000平米の場合は、3,410平米を振り分けることができました。こちら①は同じです。②蔵書数を現状より大幅に増やすことができます。現状が27万3,000冊ですので、10万冊以上増やすことができます。③については、市民要望の多い新しい機能を全て入れることができます。デメリットとしては、建築面積

が大きいのでコストは高いということ。また、②にあるとおり、ワンフロアでおさまらないことが考えられます。2フロアになった場合、別途階段やトイレ、カウンター等の面積が必要だと考えられます。ア・イ・ウ案の共通のメリットとしては、複合施設となった場合、建物に必要な機械室、警備室、駐輪場・駐車場、階段、飲食コーナー、清掃業者の部屋や利用者用エレベーターが他の施設と共有する部分として設置できることが挙げられます。

5番、ア・イ・ウ案の検討結果です。ア案の場合はデメリットが多いです。特に複合化した図書館におさまらない図書をどうするかについて、①から④の問題が挙げられます。ただ、図書を廃棄することはなかなか市民感情的にも考えられないことだと思いますので、いずれも実現するには、問題が多いと思っております。

(2)のイ、3,000平米の場合ですが、現状と同程度の蔵書数を維持した上で、貫井北分室並みのゆったりとした図書館となりますが、開館時に蔵書数が既に一杯になってしまうという問題を抱えます。ただし、310平米分が新規機能に充てられるというメリットがございます。

(3)ウは、4,000平米の場合です。こちらは現本館の蔵書をおさめられる上に、10万冊蔵書を増やせることに加え、新規機能を加えられる面積となります。図書館の職員で検討した結果は以上のようなこととなりました。

【菊池館長】 今の資料の初めに、図書館プロジェクトチームによる検討と書かれていますが、これは図書館職員の一部の職員で検討した内容であることを示すもので、6施設プロジェクトチームとは別のものになりますので、ご了解ください。

そして、今日これから皆様にご意見をいただきたいと思っておりますが、その参考資料を今、岡本奉仕係長から説明させていただきました。それをもとに6施設複合のこの図書館の形やあり方について、ざっくばらんで構わないのですけれども、どのようなご意見をお持ちなのか。特に2点、市長は現有面積2,000平米で複合化というふうにおっしゃってございました。今の本館の施設、ご存じかと思えます。かなり老朽化が進んでおりますので、2,000平米でも良いから複合化施設に入るべきというご意見はあるかもしれませんし、また逆に2,000平米では少ないのではないかというご意見もあるかもしれません。その辺のご意見をいただければと思いますので、よろしく願いいたします。以上です。

【田中会長】 まずは、この資料について何かご質問等ありますでしょうか。

【藤森委員】 仮の話で想像できないところがあるのですが、建物は1つで、その中に

6施設が入るということですか。

【菊池館長】 もともとは6施設複合化というふうに進んでおりましたので、1つの建物に入る。ただ、さきに市長は集約という言葉が使われていますので、その辺が少々まだわからないところです。

【藤森委員】 そうすると、この3つの案というか、広さの提案がありますけれども、こっちが勝手にこの広さが欲しいといっても、必ずそれだけもらえるという訳でもない訳ですよね。それは何か向こうから提案があるのですか。

【菊池館長】 まず先に図書館としてどういう希望があるのかということをお求められています。今まで図書館としては、このぐらいの土地をあげますから図書館考えてみたらどうかという話が多かったので、このように先に図書館はどのぐらい必要なかを求められることはなかったのですね。ただ今回は、図書館の計画、希望を教えてくださいと言われております。

【藤森委員】 わかりました。ありがとうございました。

【石田委員】 希望をというのだったらできるだけ一番大きいやつで。どうせ削られるのですからね。ということと、蛇の目の跡地で、地下1階地上3階しかできないのかなという気がするのですが、住宅の建ぺい率か何かの関係で、地下1階地上3階になっているのですかね。

【藤森委員】 それは今の建物のことじゃないですか。ここに書いてあるのは。

【石田委員】 これは今の建物ですか。

【菊池館長】 はい。

【石田委員】 6施設の構想というと、その建物構想というのは全然提示されていないのですか。

【菊池館長】 まだできていないのですが、計算上から1万1,000平米ぐらいの土地です。建物的に2万2,000平米が限度というように参考値をいただいております。2階かどうかはまだ。

【石田委員】 2万2,000。容積率がありますよね。だから、それに対して。

【菊池館長】 すみません。約1万1,000平米の敷地がありまして建ぺい率が60%と、容積率が200%となっております。

【中里委員】 これを拝見したときに、オリンピック競技場の案のことを思い出しました。やはりより立派なものでより様々な施設が入っていたほうがそれは喜ばしいのですけ

れども、将来、これから30年、50年と生かしていきたい場合に、将来を見据えて、人口もある程度減るでしょうし、難しい問題があるかと思うのです。そして、小金井がどのようなまちを形成していくかによって、高齢者に優しい福祉のまちになるのか、若者に特化した吉祥寺のようなまちづくりを望んでいくのかによって、やはり求めて入れてくるものもおのずと違ってくるかと思えます。

ですから、その辺が市民全体のコンセンサスを得られるものにしていくというのは、大変長い道のりのような気がしています。個人としてはITの部屋はぜひ入れていただきたい。というのは今貧困の若者が就職活動するにも、インターネットでアクセスできない人がこの時代にいるということを知って、そういう人たちも集えるようになってほしいと思うものですから、無料でネットが使えるところは入れていただきたいなと思いました。以上です。

【藤森委員】 図書館というのは少々特殊な施設じゃないかと思うので、話を進めていくに際して、専門家や図書館をつくった経験のある方など、そういう方をアドバイザーとして迎える考えはありますか。

【菊池館長】 今は、複合化施設に向けてのプロジェクトに入っておりますので、図書館としてアドバイザー等独自では考えてはいないです。8月までというようになっておりますので、スケジュール的に難しいところでございます。

【藤森委員】 図書館は大きな建物の中の一部ではなくて、広い土地があるのだったら、図書館だけ別の建物にしてほしいと思います。以上です。すみません。

【石田委員】 すみません。藤森さんのアドバイザーということで少々気になったのですが、前期の委員の中で、途中でやめられた斉藤委員が津波の後の気仙沼の図書館をつくる委員になっていました。気仙沼の図書館を計画して、僕はそれに携わっていますと言っていましたので。やめられて現在の任務はありませんが、小金井市の評議員になっていたこともあるし、意見を聞けるチャンスはあるのではないかなと今思いました。

【鴨下委員】 船崎さんは、武蔵野の図書館づくりに関わっていた方ですよ。様々なノウハウをお持ちなんじゃないかと思うのですけれども。武蔵野プレイスをつくられていたときのメンバーですね。最後まで関ってはいないみたいですが、立案はしたみたいです。

もう一つ、この案を見させていただいて、やはり現状が狭いということで建てかえを希望しているので、現状と同じという案はあり得ないなということ。案として出すなら国の基準を満たしたものの、文部科学省や日本図書館協会が出しているような案に見合ったしっ

かりした案を図書館としては出していった方がいいのではないかなと思います。

また、先ほど藤森さんからお話がありましたが、私も市長の6施設複合化を小金井市で考えた場合、全然土地がないのだったらしようがないと思うのですが、蛇の目の土地は長細いですよね。ですから、市庁舎群とか図書館棟とか、そのようにして別に建てることは可能なのかなと。そのようなところからも検討ができるのかなという気がするのです。

図書館としては、何も1フロアじゃなくても、今も閲覧室は2階に分かれていますけど。武蔵野プレイスも幾つかの階に分かれてそれぞれのコーナーで蔵書があるので、そのような方向で考えていくこともできると思うのです。ですから、建築の都合等あるのかもしれませんが、同じ敷地でもできたら別棟、そしてやはり基準を満たしたものを私はお願いしたいと思っています。また、閉架というのはとても大事だと思うのです。特に、中央図書館というのは市の資料や地域活動の様々な資料、歴史的な資料等地域の文化を保存しておく場所だと思うのです。そういう意味では、他の分館に比べて閉架がとても大事だと思います。ですから、閉架をあまり軽視しないで、きちんとしたものをつくっていただきたいという気がしています。

【田中会長】 先ほど、委員からも話が出ましたが、ここで船崎先生からのコメントが来ておりますので紹介します。「複合化について、図書館を建てられるチャンスがあるのであれば、ぜひ頑張ってもらいたい。また2,000平米、3,000平米、4,000平米と規模の案が出ているが、ぜひ4,000平米の案で進めていきたい」というご意見をいただいております。

【坂野委員】 すみません。私は2,000平米でぜひいっていただきたいという意見になります。これは一般論ではなくて、小金井市は圧倒的に予算がない、財政がないためです。今の人口から基本的に2割減るので、将来の市民、つまり今の子どもたちの市税負担がおそらく耐えられないのではないかと。要するに立派なものを広く作ってしまうと、それだけ市税が高くなる。ということは、市からみんな将来的に出ていくと思います。ですから、子どもたちの負担、将来の市民の大きな負担になるものは我々としては避けたいということが強くあります。現状の2,000平米を今後はどう使うかということで検討すべきでしょう。読ませていただいて随分考えたのですけれども、この報告書については、幾つか要望がありますし、欠けている点がありますので、それを何とかしてほしいということです。

それを議論するために、極端な例を出しながら私のアイデアを言って、この報告書の

問題点を言っていきます。まず本館、2,000平米ぐらいあるとのことで、そのつくりなのですけれども、まず一般の閲覧の席、これを全部廃止にしてほしいということです。代わって造るのは調査研究用の部屋です。イメージとしては本館の2階（参考資料室内）にある机の部屋と思っていただければ結構です。

これについてなぜこういう意見出すかといいますと、私は様々な図書館に通っているのですけれども、閲覧席が勉強する学生以外で一杯になった状況を見たことがありません。貫井北分室についてお話ししますと、31席、机があります。私は貫井北分室が開設されてから100回ぐらい行っていますけれども、あの31席が一般の閲覧者で一杯になったことを一度も見たことがありません。例外としても試験前や夏休み・土日には教科書や参考書を開いている学生が大半で一杯になります。ウィークデイにも行きますが、平均3割から最大7割の占有率ですし、中にはクロスワードパズルをしている人や“スウドク”をしている人がいて、それを除けば半分の占有率に満たないです。つまり机席の半数を超えて本来の閲覧者が座っているのを見たことがありません。ということは15席で足りると思いますね。万一満席になるようであればどうするかといえば、ソファで足りるでしょう。

本館の1階にそのような小さな一人がけのソファを置いてありまして、今日も行って見ましたけれども、それを使って座っていらっしゃいます。そういう椅子を使っていただくことで一般閲覧席机席を減らせば相当の転用できるスペースが生まれますので、考えていただきたいということです。

それでは不便があるのではないかという場合、前向きなアイデアを出してほしい訳です。というのは、本館の一般閲覧席を誰がふだん使っているかということ、高齢者と子どもです。子どものことは後ほど触れるので、まずは高齢者についてです。館内で高齢者の閲覧しているものはほとんどが新聞と雑誌です。ということは、高齢者の方々が座るソファのある所に雑誌と新聞を持っていけばいい訳ですね。つまり発想を逆にして、図書館にソファを置いて高齢者を呼ぶのではなくて、福社会館等に図書館が出ていくことはできませんか。出前型の図書館です。図書館の棚を置かせてもらって、そこで閲覧してくださいと。複合施設であればこの新聞架の場所も高齢者の便宜を想定し、1階が最適です。さらに施設共通の待合せ室をおそらく設置すると思いますので、そこに図書館の本を置けばいい訳です。

お気づきの方もいらっしゃるでしょうけれど、武蔵野プレイスがこの配置形になっています。ですから、ゆったりと座って休みながら読むこともできる。これは応用が効きます。

もし児童館みたいなものがあれば、そこにも図書館が出前していけばいい訳です。

もう一つ多少具体的に言うと、宮地楽器ホールについて。あそこは2階の事務室の前に音楽書籍が並んでいます。これは非常にいいアイデアです。そこに図書館から音楽書籍で閉架にある本を持っていけばいい訳です。そういう発想で図書館が出ていくと、図書館の貸出しサービスを向上することができます。閲覧席はその出先場所で確保して利用してもらおうというような発想に切りかえていただきたいという一例です。ですから、一般の閲覧席をなくすということを申しましたが、こういうふうな前向きな考え方で検討していただければということです。

予算がないとは言いながら、絶対にやってほしいのは地震対策です。この対策を完全に行っている図書館をあまり見たことがありません。この間の熊本地震のような震度6強や7の揺れが起こった場合、高い書架の本が頭に降ってきます。下にいれば多分無傷では助かりません。4,000平米に書架を全部並べてしまいますと、全部落ちてしまい避難所にもなりません。おそらく27万冊のうち17万冊ぐらい落ちるでしょう。そんなフロアでは非常時に使い物になりませんから、今はこの地震対策にこそ資金に余裕があるのであれば、ぜひ回していただきたいと思います。

まとめますと、現状並みの2,000平米は市民の方々は不便に感じるかもしれないが、大きな図書館をつくっても将来的に税負担増になるのは目に見えています。小金井市はそれらを十分承知した上で、狭いけれど、その代わりに違った図書館サービスを新しく作っていくと考えればと良いと思います。

子どもについては、前回内田さんから良い例が新聞にも載っていたと伺ったので、これについて調べてみたところ、1月25日(月)の朝日新聞に載っていました。これは千葉県八千代市立中央図書館の事例ですが、ここでは図書館に託児サービスを置いており、非常によくできています。これを進めているのは図書館流通センターですけれども、記事にはもう少し詳しく載っています。

この図書館についてインターネットで調べました。4,000平米ぐらいあり、レイアウトも見たのですが、大前提が違います。人口を比較すると小金井市は3月末現在で11万8,000人ですが、八千代市は19万5,000人です。更に、小金井市民11万8,000人の一番多い年齢、これは年齢別の統計によると48歳です。一方の八千代市は43歳。小金井市より5歳若いのです。つまり生産年齢人口がまだ若いのです。したがって、将来的に費用・税金が多少多く掛かったとしても賄えると思うのです。詳しく申し上げませんが、

小金井市は若い年齢の比率も少ないです。小学生の比率は0.8%ほどということ を考慮すると、人口が先細りするの はかなり目に見えている状況の中で、千葉県八千代市の中央図書館は確かに良い事例ですが、非常に参考にしづらいなと感じました。

ただそれを見ていて思ったのは、先ほども申しましたように、子どもたちが集まる場所として児童館があるのなら、そこに図書を持っていけばいい訳です。子どもたちの図書を閉架にあるものも含めて全部持っていけばいい訳です。

もちろん書棚と人が必要ですので、その辺りは相談する必要がありますが、そうすることによって図書館を使っ ていただけるということになります。分散させると大変じゃないかという考えもあるかと思いますが、今も各分室があり分散している状況なので、必要であれば取り寄せるというシステムを作れば、分散させること自体には問題はなかろうかと思 います。

それとこの報告の中での5番、5ページ目について、ア・イ・ウの案についてそれぞれに書かれていますが、検討結果のアのところ で①から④、収まらない図書をどうするかという問題で、この部分だけ随分詳しく書かれていますが、検討結果がこういう形でまとめられるのであれば、2番、3番についても同じように書いていただきたいと思 います。ウについても、運用のための費用が相当かかるということ をここで書いていただきたいです。

これを思いついたのは2回前のこの協議会の際に、当時の上石館長が口頭で「すみません、今、補正予算を組まなくては いけないので」とおっしゃっていました。何の補正予算か聞きましたら、光熱費だと言っていました。現状でも光熱費について補正予算が必要だとなれば4,000平米になったら絶えず光熱費の補正予算を組む必要があるのではないかと思うのですが、この5ページの5の検討結果のところ にこうしたデメリットをきちんと並べていただきたいということ です。また、アのところ に書いてある①から④について、課題が多いで終わって いらっしゃいますが、これについては回答を出し、案を示してくださいというお願いです。

私どもからも案を幾つか出します。1つはもう申しました、他の施設に本を貸し出して ください、閉架にあるものだから図書館になくても構わないだろうということ です。これは市の施設に限ったものではありません。市内にある大学に貸したら良いのではないかと思 うような学術書もあります。そういった本を無期限で貸出ししてはどうかと。貸出し していることが分かればそれで良いのではないかということ です。

それから、具体例で申しますと「串田孫一全集」が閉架にあります。串田孫一さん、小

金井市にいらっしやったので当然ですが、非常にきれいな状態であるのにびっくりしました。これをはげの森美術館に貸したらどうかということです。閉架に眠っているくらいならば。はげの森美術館は半年ほど前、串田孫一の記念展を開催した際に講演会を行ったら、倍率が3倍ぐらいになりました。これだけの倍率が集まるくらいなので、非常に関心がある。ならばこういう関心があるところに図書を持っていけばいいという発想を持っていただけませんかということです。ここのところは様々な施設、今回は6施設の中に福社会館が入ってきますけれども、相互機能を利用し合うということを考え、話し合うという場を設けていただきたいということでございます。

それから、IT化の話がありますけれども、閉架の中に相当古い新聞とか雑誌がありますが、国立国会図書館には100万冊のデジタル化された資料があります。そういうのを使っていただけませんかということです。公共の図書館であればデジタル化資料の送信サービスを受けられることをご存じかと思いますが、これでもっておそらくこの間閉架で拝見させていただいた朝日新聞の大量の綴じ込みの保存が不要になり、相当の空きスペースができるかと思えます。その代わりにIT、パソコンは何台いるのかにもよりますが、資金がいるため、古い新聞や雑誌の保管コストが要らなくなるということを試算していただいた上で考えていただければと思います。

それから、もっと本質的な点を指摘させていただきます。これは背景を言う必要がありますので、背景を申し上げさせていただきますと、今年3月29日に小金井市の教育委員会がありました。そこで委員長の職務代理をされています鮎川志津子さんから上石館長に質問がありました。小金井市生涯学習推進計画の24ページに記載のある、図書館における住民一人当たりの図書館貸出冊数の目標（平成32年度）は8.6冊となっています。

鮎川さんのご質問はなぜ8.6冊なのかというものです。上石館長のお答えは後期基本構想に記載されている数字を転記しているとのことでした。その時はそこで終わったのですが、鮎川さんはその後コメントを出してしまっていて、その内容は12冊にしてほしいということでした。12冊と8.6冊では随分差がありますね。その根拠もお聞きしたかったのですけれども。

【田中会長】 もう少し手短に。皆さん長くなるとわかりづらいので。

【坂野委員】 図書館の後期基本計画では、貸出冊数について現状が8.1冊に対しての目標として8.6冊としています。ところが、前期基本計画を見ても現状が7.0冊に対しての目標を8.4冊としています。平成20年度から27年度、1.4冊増やすとい

う目標が0.5冊に減っています。なぜなのかということをお聞きしたいです。今、ご回答いただく必要はありません。

不思議に思ったのは、後期基本計画では貫井北分室が開館している状況にも関わらず、目標が増えていないということです。よって、図書館に開架を増やしても借りる人が増えていない、それを目標に反映されていないという状況です。ということは、今いただいた報告書の中で、開架が狭いと貸出数は増えないとありますが、それはあまり根拠にならないと思います。実際、貫井北分室に行ってみても、瀬戸内寂聴全集などの文学全集がありますが、ほとんど借りられていない。ですから、閉架のものを開架に置けば貸出数が増えるかといえば、必ずしもそうではないと思います。広ければいいということではないということです。

住民一人当たりの貸出しを1冊増やそうと思えば、追加で11万8,000冊を年間借りていただくことになります。ということは、閉架の本を開架に上げたとして、毎日400冊も追加で借りてくれるかなと疑問に思います。ですから、開架を増やせば借りる人が増えるという訳ではないだろうということで、そのような表現が今回の報告の中にありましたけれども、これも少々書き方を変えて検討をし直していただきたいということです。

すみません、会長からご指摘がございましたので、手短かに結論を申します。私はアの現状で、図書館のサービスの与え方を変えるという方向でぜひ検討案を出していただきたいと思います。

最後に1つだけ言います。前回の図書館協議会のときに市民の声を聞くというものがあつたようですが、若者討議会というものを開くということが言われているようですので、若い人が見るに合ったサービスの提供の仕方等も聞くために、この若者討議会を開くということを図書館側からも今回の6施設の設立に当たり、ぜひ要望を出していただきたい。

この若者討議会というものは去年、平成27年4月24日に図書館市民参加推進会議から市長宛てに出されていて、当時の稲葉市長からの回答で若者討議会に適した事案や時期に関して開催を研究していくとありますので、まさにこの6施設をつくるということはこういう討議にふさわしい場だと思っておりますので、その中で図書館からどのような図書が必要なのか、あるいはどんなサービスが。以前にも言いましたが、本当はコンビニで本を送ってくれば一番いいと思うのですが、そういう類いの具体的な検討をするために若者検討会を開催していただきたい。8月末に間に合うかどうかは分かりませんが、実際にで

きるまでの間にぜひこういう制度を検討している訳ですから、開催していただきたいと思
います。

【田中会長】 先ほどまとめていただきましたけれども、A案の2,000平米でサービ
スの仕方などについて一番私が感じたのは、他の施設、福祉会館など様々な施設と提携す
ること。図書館だけであるというクローズした考え方ではなくて、融通し合えば共通のス
ペースも生み出されて、限られた中でもうまくいくのではないかという考え方がるという
ことを提示してくれたと思います。そういう考え方は非常にいいのではないかと思います。

現状、図書館は図書館の話、福祉会館は福祉会館の話に対して、こうして合体したらど
うなるのだろうという考えになっていますけれども、そのように共有できるスペースがあ
ったらよくなるかもしれないというご提案だと受け止めております。

今までのお話を聞いていますと、6施設一緒に入る要望が必ずしも必要だと限らないと
いう意見もありましたね。要するに先ほど館長からもありましたけれども、集約というこ
とであれば、蛇の目跡地に図書館が独立して建つということもいいのではないかという意
見もありますし、6施設の中に入って今のスペースを維持しながら、あるいはもっと広い
スペースを持ちながら6施設一緒になってやっていくという2つの考え方がありました。

いずれにしても、もういつまでも今あるところにはいられないと、建て替えをするので
あればそっちへ行ったほうがいいということによろしいですね。

【鴨下委員】 複合施設であるということは、例えば今小金井の図書館は駐車場が全然
ないです。やはり小さい子を持っている親は駐車場がなければ連れていけないです。です
から、駐車場をきちんと市役所と一緒に使えることはとても意義があると思います。乳児、
幼児を持っている親も参加できる、行ける、また老人も行ける、雨の日も利用できるとい
うことを考えると、図書館だけではつukれない施設を一緒につくることによって利用でき
るようにするということのメリットは大きいのではないかと思います。

それともう1つ。今、貸出しという話が出ましたけど、図書館も本を読む人口を増やす
ということを考えていくと、様々な手だてが必要なのではないかと思います。どちらに
しろ図書館で管理をするにはそれなりのスペースがないと管理はできないと思うのです。
職員の人数も必要になってくると思いますが、他にも様々なことが考えられると思います。

どうしてもその複合施設の容積が決まっています、この容積に入れるなら図書館はこれだ
けだと言われて今の広さよりも狭くなるのなら、これは検討する余地があるのではないかと
思います。ですから、基本的に図書館協議会として出す方向としては、小金井市の図書

館の機能をきちんとつくっていくためにはこれだけのものが必要だという基本的なものを出していったほうがいいと思っています。

【坂野委員】 1つよろしいですか。今、鴨下さんからのお話で駐車場のお話が出ましたので、図書館自体の話ではないのですが、お子さんを連れていらっしゃる方は電動型自転車でいらっしゃるケースが非常に多いです。これはぜひ考えていただきたくて、駐車場をとるとなれば相当な数になると思います。というのは貫井北センターでは多いときには自転車がおそらく200台以上あります。建物の裏まで回っているという状況です。6施設に関しても、きっとそういう状況になると思います。ですから、これは図書館の特色だと思いますけれども、この自転車の場所を確保するという、これはぜひ計画上で読んでいただきたい。ここの本庁舎もそうですけれども、自転車置き場は小さいですね。あの程度では済まない。これは設計図ができたときにどれぐらいになるか、非常に私は関心があるのですが、どこかと共通の駐車場というものではなく、図書館専用になるぐらいのものを考える必要があるのではないかと強く思っています。

【田中会長】 それはわかりました。他に何か。

【菊池館長】 今日お出ししました資料は検討と書いてございますけれども、検討結果までまとめたものではなく、今日お話しいただく上での参考資料ですので、先ほど委員さんからもいただきましたけれども、ア、イ、ウの検討結果、デメリットをもう少し書いてほしい、書いていないところもあるというご意見をいただきましたので、これは本日のご意見として受け止めたいと思います。

それから、駐車場・駐輪場は図書館独自で持つべきか否かという問題です。私の個人的な意見になって申し訳ないのですが、様々な施設がまず自分のところで必要なものを出し合って、先ほどソファのお話もありましたけれども、共同化するときには面積を縮小し、有効活用できるということはあると思います。

逆に後から足していくということはなかなか難しい話だと思います。最初に持っていて集約化して省くことはできると思いますが、最初から決まっている上で、そこに追加していく流れを考えるのは難しいと思います。

【鴨下委員】 この検討は今日だけですか、また何回か続くのですか。

【菊池館長】 中間報告がもうそんなに遅くない時期に出てくると思うので、今日いただいたご意見がプロジェクトチームに反映する時間があって、中間報告にのるかどうかというところが微妙なところですが、ただ、結果は8月までですので、今日いただいたご意見

はまた反映させていこうと考えております。

【石田委員】 やはり私は4,000平米を希望しておいて、減らされるなら致し方ない、妥協の方向性があると思うのですが、今、館長がおっしゃったように後から加えるというのは非常に困難です。図書館も一度建ててしまったら、今後は様々な要望が恐らく酌み取っていただけないだろうと思います。後からこれも必要だった、あれも必要だったという要望を出しても、もう新しいのが建ったからその中でやってくださいという意見で押し込まれるのではないかと思います。

また、できることなら先ほど鴨下さんもおっしゃっていましたが、収蔵・廃棄するということはできるだけ避けてほしい。それと原本のほうデータ化の中で情報は簡略化できますが、原本を手にとって見るという図書館でなければ置いておけないものはあると思います。やはり図書館イコール歴史の保存ということもあると思いますので、要望はやはりできるだけ広くしてほしいと思います。そして、要望した上で先ほど坂野さんもおっしゃったような、一般は少なくして車椅子の部分を広くするとか。

それから、貫井北センターを見ると高校生たちが男女入り交じって勉強し合っている場面が結構あります。社会教育委員の会で集まって、貫井北センターを使った際に、生徒たちがお互いに教え合っている姿に皆さんがすごく感激していたのです。小金井市民はこういう生徒同士が勉強し合って、教え合っている姿が見られないということをやっていたのですが、貫井北センターでは当然のこととしてわからないことを教え合っているのです。そういう姿もスペースがあればこそできることなので、やはり広く要望しておいて与えられた中でまた考えていくという2段階、3段階は絶対出てきますので、最初は広くしてほしいと思います。

【内田委員】 私も適正が何平米かわかりませんが、坂野さんが小金井市の財政が厳しいので、将来の子どもたちにもあまり借金の負担は残したくないとおっしゃっていただくのはやはり現状、親として非常にありがたいと思うのですが、それは今私たちが考えるべきことではなく、図書館の機能があってその上で市の財政でどうあるべきなのか、どれが可能なのか、将来どういうリソースがあったのかというのを考えていただけたらいのではないかと思います。まずは図書館の機能として何が必要かというところを求めて、最大限求めていった中から削らなければいけないものも出てくると思いますので、そういう方向でいくほうが良いのではないかなと思います。私も不勉強なのできちんとしたことは言えませんが、親の立場から言えば、図書のスペースに机の閲覧席は必要で

あると思います。実際そこにいる人たちは図書館の本を見るのではなく、持ち込んだ参考書で勉強している姿があるのですが、それを別の施設でやらしてもらえればスペースが削れるというご意見はありましたけれども、様々な本に囲まれている中で過ごすことによって、本に対して身近に思う気持ち、なじむことはあると思うのです。

図書館というものは純粋に本を借りる、調べるといった機能だけではなくて将来の利用者をいかに育てていくかという機能も考えていかなければいけないと思いますので、貫井北分室がベストなのかはわかりませんが、そういった余裕のあるスペースというのにも必要なのではないかと考えます。

【坂野委員】 学習施設について前回も船崎さんから武蔵野市の例だと思いますけれども、お話がございました。「学習施設」については図書館とは違うところで議論していただきたいなと思います。学生にとっての重要性は十分にわかります。しかし、図書館としての予算の中で考えると、肝心の図書購入が制約されてしまいますので、良い本を買えなくなります。学習施設については学校教育と連携してやっていただきたい。宿題や大学受験のために図書館のスペースを使うくらいなら、学校の図書室や教室を開放したらいいのではないかと思います。一般市民が生涯学習のために利用する図書館でやれと言われますと困るので、学校内で。もしどうしても学校教育側でそういうスペースが与えられないのであれば、別途にふさわしい部屋を学生のためにつくってあげる、これも1つの発想だと思います。ただ、それは図書館とは別物だという予算の組み方で考えていただきたいと思います。

これは「第2次明日の小金井教育プラン」にてパブリックコメントの1番に学校教育を図書館でやっているという件について質問を投げかけましたら、学校におけることは「第2次明日の小金井教育プラン」で検討するが、学校の外におけるものは対象外であるという回答でした。ですので、学校の仕事・教育を学校の外でやるということについては、図書館に押しつけずに、どこか別の所で利用していただく、スペースを確保していただくという方向で調整していただきたい。そうすることによって、図書館としてきちんと資料をそろえて保存・利用するところに予算を注ぎ込めるとと思いますので、今お話したような機能を図書館であまり引き受けないでいただきたいと思う次第です。

【田中会長】 学習スペースを併設するというのは非常に難しいところもあろうかと思えます。ただ、貫井北センターを見ていても思うのですが、今までなかったスペースを設けることで図書館に足を運ぶ人が増えることはいいことなのではないかと思います。

ここで結論を出すという訳ではありませんので、それぞれのご意見をまとめてプロジェクトチームに返していただいて、皆さんの大体の結論はある程度大きなスペースを持って余裕がある中でやれたらいいというのはあると思います。坂野委員からは現状を見ると厳しいから今のままぐらいのスペースで中身を変えていくということも必要であろうというご意見があったので、何とかなるべく蛇の目の土地に新しく様々な意味で気持ちよく使えるスペースがいいと思います。

【坂野委員】 申し訳ないですが、もう1つだけ加えさせていただきます。

先ほど内田さんから将来若い人が使える機能を持った図書館という趣旨のお話がありました。これはそのとおり賛成します。その若い人についてですけれども、前回この協議会で事務局からいただいた資料を持ち帰ってじっくり見ましたら、その資料は年齢別利用者数の話で、小金井の人口を計算すると1人2.2回図書館に来て借りているというデータがありました。これを年齢別に見てみまして簡単に言うと小学校ぐらいまでは4回程度来ています。それから、40歳以上になりますと3回程度来ています。問題は中学、高校、社会人（フレッシュマン）は0.8回しか来ていないということです。これはこの間事務局からいただいた資料で出てきます。ということは一番肝心の若い人が図書館に来ていない、借りていないということです。やはり市民のための図書館という施設を謳うのであれば、ターゲットを絞ってこの人たちがどうやったら来てもらえるかということを考えないと、それこそこの人たちが将来的に来なくなるということです。23歳から29歳という社会人のフレッシュマンが図書館に来やすいような環境、図書の内容も考えていくということによって利用率が上がるものと思います。先ほど教育委員会の鮎川さんの話を言いましたけれども、8.6冊を12冊にする1つの手段かと思っておりますので、この点をつけ加えさせていただきます。

【鴨下委員】 この前資料が出たときは何も発言しなかったのですが、この課題というのは私は図書館だけの問題ではないと思っています。その年代の人たちがどういう生活をしているかと見ると、本当に日本は受験戦争が大変ですし、もう子どもたちは中学に入った途端に受験態勢に入って行って、図書館に来る時間もない。そして、就職したばかりの人は本当に夜寝る暇もないぐらい会社で働かされている。そういう中でどんなに図書館が努力しても図書館に来る時間がない。でも、小学生のころ図書館に通っていた人は少々時間が出たときに図書館に行ってみようかなとなる。それが今の日本の現状かと私は見えています。インターネットで予約できるようするなど忙しい世代にも利用できるように様々や

っていますけれども、やはりそのような全体的な視野で図書館のあり方を見ていく必要があるのではないかと考えています。

私は本がたくさん並んでいる図書館は魅力があっていると思いますが、勉強スペースがある図書館なら勉強のついでに書架にある物語を覗いてみようかと思う人もいるので、様々なところで何かのときにふっと利用できる、寄ってみようかなと思う図書館というのは、その地域の文化の象徴の場だと思っていますが、そういうものが様々なかたちで表れてくればいいのではないかと考えています。

ですから、学校でできることは学校でやりなさい、会社でできることは会社でやりなさい、どこでできるからどこでやりなさいというのではなくて、そういう人たちが集まってこられる場所というイメージで、先ほど石田さんがおっしゃったように、初めから計画を狭くして今回できると、できた後は10年ほど図書館が話題にのらなかつたりしますので、やはり今できることは計画にきちんと入れていって、プロジェクトで話していくことが私にはいいのではないかと考えています。そういう少々大きな範囲で図書館を考えていく。

【坂野委員】 今の鴨下さんのお話、もちろん賛成でございます。高校生は来ています。勉強しに来ていますので借りないだけなのです。だから勉強室は別につくるということで、借りるような意欲を持たせてほしいと。それから、フレッシュマンもそうです。フレッシュマンが借りるような本をたくさん用意すればいいのです。具体的に1つだけ言います。

「火花」という又吉さんの本は小金井市の図書館には計13冊ありますけれども、いまだに予約待ちが300人います。これは遅くなくても読めればいいという人でしょう。他方、若い社会人が去年何に関心持って見たかという、トマ・ピケティの「21世紀の資本」。この本は5冊しかなかったと思います。これは5,500円と高くて自分で買いづらい。それを買ってそろえて貸し出せば図書館をもっと利用するかと考えています。そういう選書まで含めて若い人を呼び込むという努力をしなければいけない。努力して呼び込まなきゃいけない。また、若い社会人が土曜日・日曜日に行ってみたら、なんと学生で満杯だったでは帰ってしまい、もう二度と来ないと思います。武蔵野プレイス4階にある、1時間当たり100円払って読む学習機のスペースのようなものをつくってあげるとか、そういうことを考える。有料でもそういうのは相当人が入っています。それを図書館としてやるかどうかは別ですが、そういう少々広い視野で考えていったときに、やはりこの高校、大学、フレッシュマンのターゲットに絞って様々な策を考えるということもこの際、これをきっかけに考えていただきたい。

【田中会長】 やはりそういう意味では広いスペースが必要だと思います。時間になりましたので、そういう意見をまとめていただいて、皆さんそれぞれ図書館に対しての思いがあると思います。それぞれの思いに基づいて検討していただきましたので、何とか実現の方向でうまくスペースをいただいて、新しい図書館ができていけばいいかなと思うのですけれども、何せ何とも言えない。

【菊池館長】 今日は皆様ありがとうございます。この場で統一した意見をという訳ではなく、今日はこの6施設、初めてお目見えしまして、ご意見いただきたいと思ったので、さまざまな意見が出てよかったと思います。ただ、図書館は数字だけでは表せない部分がございます。例えば参考資料室は貸し出しをほとんどしていない状況なので、実際はどのくらい利用されているのか定かではないところがございます。

子どもにしましても、図書館に来て本は読んでいくけれども、借りていかないということがありますので、なかなか統計上の数だけで判断するのは難しいところがございますけれども、利用者の方にぜひ喜んでいただける図書館をつくっていただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

【石田委員】 先週の記事でいいですか。選書についてなのですけれども、図書館にお願いしたいのですが、今、「火花」が300人待ちというお話でしたが、昨年アンデルセン児童文学賞を受賞した上橋菜穂子さんの「鹿の王」という本も昨年5月に私も申し込みました。それでいまだにまだ回ってこない。山本教育長に買いなさいと言われたのですが、私は意地になって買っていません。というように今、NHKで上橋菜穂子さんの守り人シリーズがファンタジーの映画になって放送されています。NHKでは3年計画で映像化していきます。それを見ていくと私は守り人シリーズが大好きだったので、あの映画を見て、ドラマを見て図書館に来る子も結構いると思うのです。昨年の時点で、守り人シリーズは単行本の2冊目であったのですが、今、ドラマがあればもっと希望者が多いのではないかと思うのです。

ですから、「火花」もそうですが、守り人シリーズは全国で買う要望が多いのではないかと思いますけれども、そういう情報をキャッチして本の冊数を増やしてくる。ドラマから本になって、本からまたドラマというのも私と同年代の人たちがドラマを見て、「これは本もあるんだよ」と言ったことにより本をよみたいと思う年代もいるのです。ですから、やはりそういうもので逆キャッチをしていきたい、冊数も増やしてほしいと思います。

【中里委員】 反面なのですが、図書館は書店ではないという気持ちも私はあります。

ですから、本屋大賞の本を大量入れるなど、それも新刊と同時に入れるというのも少々私は疑問符を持っておりますので、そこは選書としての検討委員会のようなところで1つのテーマとしてじっくり話し合っていたいただきたい、そのくらいに感じております。図書館と書店は共栄共存してもらいたいです。本当に難しい問題ですよ。

【石田委員】 利用者は皆、新刊書コーナーに来ます。

【中里委員】 でも、無料でそれを読むということに少々疑問を感じます。例えば新刊だったら一定期間一部有料にするなど、そういう形もあっていいのでは。

【石田委員】 読んでから自分の本は買うのです。私は読まないのです。置き場所も少ないですから。

【中里委員】 結局読者におもねるような形になってしまったら書店と何にも変わりがない。新刊がずらっと並んで、話題の本がずらっと並ぶのは図書館の本来の形ではないと思うのです。

【菊池館長】 選書の数、人気本の数、以前はリクエストが20件あったら1冊増やしていこうと買っていたのですけれども、そうしますと20～30冊買う必要がある本が出てきてしましまして、それはそれで人気下がった後に棚に本がずらっと並ぶことになり、問題だということで、今は小説を11冊ぐらいに抑えています。小説以外のものは各館に1冊ずつぐらいで、あとは申し訳ないですけれども、お待ちいただく。「火花」の冊数が多いのは寄贈でいただいているからです。

【坂野委員】 今の件で日経新聞12月4日、記事がきちんと出ていまして、「図書館、出版社の敵」。確かに今の状況が続くと1年間貸し出しさせないという動きになりそうですから、石田さんのおっしゃったのはそのとおりです。どこかの図書館、東京都だと思えますけれども、1冊しか買わない図書館があったと思うのです。1冊は極端にしても5冊しか買いません、あとは自分で買ってくださというのを、逆にそれこそ予算の少ない小金井市は打ち出してもいいのではないかと。

【石田委員】 私も待とうと思えば待ちますから。

【坂野委員】 1年貸し出し禁止されたら、これが一番痛いですから、適切な対策をやっていただきたいと思います。

【田中会長】 選書まで来ましたので。問題はこのぐらいにして、(2)の平成28年小金井市図書館協議会の開催日程について。

【西村庶務係長】 最後に今年度予定ということで計画とあくまで案でございます。冒

頭部長及び館長からも小金井市は暫定予算ということもありまして、暫定予算内では今回の1回の予算のみしか執行できないということです。ただ、当初予算が通ればこの欄にあるとおり協議会としては3回。例年の時期でいいますと、今度の27日は懇談会なのですが、11月は三者合同会議ということで、都合4回分の予算がつく予定です。これはあくまで現時点での案ということで、お含みおきください。以上になります。

【菊池館長】 先ほどの話に戻るのですけれども、6施設のお話ですが、図書館計画のお話がありましたので、早ければもしかしたら7月ごろ図書館に諮問されるかもしれない。まだ予定ですのでどういった形でお出しするかもわかりませんし、遅くなるかもしれませんが、ここには書いてありませんが、そういうことも念頭に置いていただければ助かります。

【石田委員】 すみません、私も諮問について伺おうと思っていたのですが、諮問が出るなら集まる回数も増えるのではないかと思います。協議会の日程をもう少々早目にお知らせいただく訳にはいかないでしょうか。少々仕事と重なったりすることがありますので、それぞれの調整をできる限りしたいと思うのです。出席したいので、ですので少々早目にいただければと。すみません。

【菊池館長】 今、暫定予算中ということもありますし、いつも間際でご不便かけていることもありますので、できるだけ早い時期にお知らせして、ご出席いただければと思いますので、よろしく願いいたします。

【田中会長】 8月までに6施設複合プロジェクトの答えが出ると。

【菊池館長】 それは6施設のプロジェクトとしての検討結果ですので、市の検討結果ではないです。それを市長にご報告するという形になります。市長がどうご判断するかというのはその後になります。

【鴨下委員】 そのプロジェクトの結果が出る前に図書館協議会に話題が出るのでしょうか。

【菊池館長】 必要があれば開きたいと思います。

【鴨下委員】 ぜひお願いしたいと思います。

【坂野委員】 そのプロジェクトチームの会合は全て非公開ですか。

【菊池館長】 そうですね。

【坂野委員】 どういう段階であっても最後のチームの結果を出すまでは非公開ですか。

【菊池館長】 会議録がこの前、総務の企画委員会では出されました。

【坂野委員】 途中で傍聴することはできませんかという趣旨です。

【菊池館長】 傍聴席は設けられてなかったです。

【田中会長】 まだ暫定予算の中で動いているということで、これは本当にあくまで案ということですので、もう次の議会に。

【菊池館長】 5月19日が市議会の臨時会となったそうです。

【鴨下委員】 その補正のことなのですが、一番初めに図書館の本が買えないというお話がありました。でも、何を補正に組むのか、暫定予算に何を組むかというのが市で決められますね。大まかな枠があるけれども。というのは学校関係とか役所関係とか様々なところでどうしても4・5月に支出しなければならないものについては、これだけは予算をつけるみたいなのがありますね。そこにぜひ図書館の本も入れていただくように要望していただきたいのです。やはり使っている身としてはこれから何月まで新刊コーナーが空っぽの状態なのか。今本屋さんではたくさん本を出版している時期なのです。ですから、ぜひその暫定予算で本が買えるように働きかけていただきたいと思うのですけれども。

【菊池館長】 暫定予算は本予算が可決するまでのつなぎの予算ということですので、水道光熱費とかそういったものが2カ月分、そのときに各課から要望ということで、図書館でも図書費を上げております。ただ、図書費が備品扱いなのです。備品枠なので備品は暫定予算でも認めないということで、今回は入らなかったということでございます。

【鴨下委員】 備品なのですか。

【菊池館長】 備品なのです。

【西村庶務係長】 予算の話がありましたけれども、市として館長からありましたけれども、これは編成方針で暫定では入れないというのがあるのです。ただ今回は4・5月と、最初の暫定予算なので、鴨下さんがおっしゃるとおり協議会として、協議会の回数など今後もあると思うので、協議会としてご要望があるとなれば、当然次のときには要望してということになるかと思えます。

【鴨下委員】 ぜひよろしく願いいたします。

【田中会長】 日程については少々不確定なところもありますけれども、こういう感じでやるということをお含み置きください。

議題、その他ということで何か事務局のほうからありますでしょうか。

【菊池館長】 特にございませぬ。

【田中会長】 皆様から何か議題、ありますでしょうか。

ないようですので、ちょうど5分前に終わると。長い間ありがとうございました。

第1回の協議会を終わらせていただきます。ありがとうございました。

— 了 —